



NPOや農家の方々とともに
どろんこになって田植えをしました

子どもたちの棚田は豊かな
稲穂をつけました

学校の環境教育支援プロジェクト

子どもたちは教室だけでなく 自然や農業を通して環境のことを学びました。

長野県
上水内郡三水村

棚田と自然の関係

棚田は日本の原風景と言われるほど美しく、機能的に見ても「小さなダム」と言われるほどの保水力も持っています。この水田は、山間の集落の人々が自然と共生していくために作られたものでしたが、日本の経済成長とともに人々は都会に流れ過疎化していき、高齢化も進み、さらに日本の減反政策や効率的な農業経営への流れが拍車を掛ける形で、荒廃が進んでいる状況です。保水力に富む棚田は荒廃すると、土砂崩れなどの自然災害を招く危険性があります。

このように棚田と自然環境の関係は大きく変化しつつあります。

2003年度の活動と2004年度の計画

2003年度は、田園どりんご畑が広がる長野県上水内郡三水村の棚田で、川崎市立桜本小学校6年生が田植え、草刈り、稲刈りを行い、また夏の草刈りでは飯盒炊爨やキャンプで自然と触れ合いました。さらに、子どもたちは三水村での自然・農業体験と並行して、教室でも環境、農業などの勉強をしたほか、校庭にミニチュアの水田を作り、稲を栽培したりしました。9月には、学校のふれあい祭りで棚田での農業体験を発表したり、学校全体でお米を試食したりしたようです。

子どもたちはそれぞれの感性でいろいろなことを学んだようです。校庭で獲れたお米と三水村で獲れたものを食べ比べ、その違いに驚き、お米が自然のエネルギーを吸収しながら育つものだということを学び、また、一年を通じて棚田に向き合ったことで、棚田が抱える問題もかなり身近な問題として受け止めたようです。さらに、お米を育てた農家の方々の苦労も知り、またその巧みに尊敬の念を抱くなどいろいろな効果があったと自負しております。2004年度は関東圏の学校だけでなく、全国の学校数校の自然体験、農業体験を通じた環境教育を支援していく予定です。